



碧南ロータリークラブ週報

第2640回例会 平成25年5月15日(水)

- 会長 黒田 昌司
- 幹事 木村 徳雄
- 会場監督(SAA) 新美 雅浩

2012-2013 年度 国際ロータリーのテーマ

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール
 ■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp

■会報委員 菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴



●齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

●本日のメニュー

和風弁当 大正館

●本日のお客様

碧南市史資料調査員 浅井 久夫様

退 会 挨拶



会 長 挨拶

今日は野菜嫌い人向けの話をしたいと思います。

花や野菜にモーツァルトを聞かせるとよく育つ、という事は聞いた事があるかもしれません。それを科学的に、西オーストラリア大学の進化生態学のモニカ・ガリアーノさんが実証されました。記事には、「隣の植物の音を聞いた植物は、自ら成長を促進させる。

音響信号を利用して、コミュニケーションを取っている可能性がある。」とございました。嗅覚や視覚は今までに確認されております。今回の実験で、植物も動物と同じように音によるコミュニケーションを取っているらしい、という事が実証されたわけでございます。



黒田昌司会長

今後は、何かしらの音楽をかけると野菜がぐっと成長し、他の音楽では雑草が枯れるといったような研究がされていくのではないかと、思います。

また、ゴルフをやられる方に注意がございまして、ボールがよく当たる木は早く枯れるというのは実証されております。自然を大事にして、ボールを木に当てないように自分の腕を磨いて頂きたいと、思います。

幹 事 報 告

- ・ 幹事報告は、幹事報告書の通りでございます。
- ・ ロータリー情報委員長について、委員長の犬塚さんが3月で退会されましたので、6月まで副委員長の新美さんにやって頂く事になりました。
- ・ 6月の最終の理事会でございますが、ゴルフ遠征のため、例会前の11時半より開催させていただきますので、お願い致します。



木村徳雄幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 66 名 (内出席免除者 10 名の内出席者 8 名)出席者 57 名	
出席対象者 57/64 名	出席率 89.06%
欠席者 9 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 93.55%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

- 山中 寛三君 誕生祝と結婚祝を有難うございました。
- 池田 弘孝君 長田銑司君 五冊目の出版おめでとう。同級生として誇り高く思います。
- 小笠原良治君 キリン・ペンギンにつづきこのたび埼玉県こども動物自然公園とのコラボで“カピパラ”が仲間入りしました。5月中は地域限定販売ですが、近日中には販売できると思いますので是非一度ご正味下さい！
- 新美 宗和君 5月12日(日)三重TV(7ch)の激カラ♪スターチャンネルの番組収録がありました。6月14日(金)昼12:00~で4週に渡り放送されます。見て下さい！
- 清澤 聡之君 本日の講師：浅井久夫氏を紹介致します。
- 竹中 誠君 先週は例会を欠席しました。結婚祝のケーキを頂き、有難うございました。
- 鈴木 宏枝君 良い事がありました。そして欠席も多くなりメイクアップで頑張ります。
- 新海 孝司君 いろいろお世話になりました。ありがとうございました。
- 鈴木きよみ君 良い事がありました。ありがとうございました。

「無我愛運動に生涯を捧げた野の哲人、伊藤証信」

碧南市史資料調査員 浅井 久夫様



浅井 久夫様

伊藤証信は、三重県員弁郡（現 桑名市）の農家の長男として生まれました。両親は熱心な浄土真宗の信者で、通常は長男ですと農家の跡取りなのですが、体が弱くて自分は継げないという事で弟に継がせて、寺に入る事になります。その後、真宗大学へ入りました。大学が東京へ移転したため、証信も上京しました。その時の学長が、師と仰ぐ清沢満之でした。

仏教の大学へ入りましたが目標を見失い、また心の師であった清沢も亡くなってしまい、色んな事が重なり憂鬱な毎日を送っていました。

そんな状況の明治37年8月、父親が病気がちなので大学を休学し、帰省しました。そして、ある夜、不思議な靈感に打たれて法悦の涙にひたり、その日を境として、「我愛の生活」を脱して「無我愛の生活」に一変しました。言葉を変えると、自分が憂鬱になっていたのは、こうなりたい、ああなりたいという欲望が原因で、欲望を捨てればそうならないのではないかと考えたのです。無我愛とは、無条件で人を愛するという事で、それがこの世の中の心理である、と悟ります。

証信は巢鴨に「無我苑」を開苑し、「無我愛」伝道を始めました。しかし、自分は無我愛運動も何もやっていないのに、誰かに説くというのはダメだという事に気づき、有名になりかけた無我苑を開苑から9か月で閉鎖しました。

その後、徳山に単身で教師として行きます。そこで後に妻になる竹内あさ子と出会います。この人は、小さい時に頭の毛が抜ける病気になりまして、大人になっても髪の毛のない女性で証信の雑誌を読んで、証信に憧れます。証信が徳山に来るという事で、証信に会って好きになり、証信に告白をします。多くの見解では、哀れだと思い結婚したという説がありますが、私個人的な意見では、竹内あさ子は女性的にも人間的にも非常に出来た人だから結婚したのでは、と思います。その後、東京へ戻り無我愛運動を実践します。

無我愛は、平等愛と差別愛という矛盾点を抱えています。どういう事かと言うと、自分の妻だけ愛するわけにはいかないのです。他の女性も平等に愛さなければなりません。彼はこの矛盾点にぶち当たります。証信が他の女性に目を向けた時に、あさ子は嫉妬し夫婦ゲンカになります。証信はあさ子に対し、他の男とも仲良くしなさい、とごまかしたりもしました。しかし、あさ子も年下の男性に惚れてしまうと、証信は非常に悩むわけです。これが平等愛と差別愛との矛盾点です。そして、何とか思想で乗り越えていくわけです。

雑誌へはこれら全ての出来事を発表します。読者からは偽善者と言われたりもしますが、賛同者もたくさん出てきます。

証信夫妻は大正14年、西端の「竜灯団」に招かれました。昭和9年には西端に無我苑の本部

道場を建設し、地に着いた伝道活動を行いました。ここで、40年ほど無我愛運動を続けていきます。昼は農業をやり、夜は哲学を語るわけです。証信自信は、科学を研究しているんだと言っているわけですが、人は死んだら自分の一生を宿した種になって宇宙へ行き、自分にふさわしい人のところへ宿り生まれる、という考えを持っていました。証信自身は、科学的に実証できたんだと言っているわけですが、このような思いを持って生涯を遂げます。

無我愛と仏教との違いですが、無我愛というのは理想的だと思います。自分が無我の境地に立って、他を全力で愛するという無償の愛です。ただ、これを広める人がいませんでした。娘も違う宗教のところへ嫁いでしまいます。理想論的過ぎて、長続きしなかったのではないかと、思います。

色んな問題がある現代で、証信のような純粋な愛を捧げる事は難しいですが、証信のような思いが大事ではないかと思えます。

次回例会案内

平成25年5月29日(水)

卓話「薩摩琵琶で語る いにしへの響き」

糸井 藍水氏